

3 消費地からのホットニュース、トピックス

(1) 生鮮野菜の輸出量初の100万トン台乗せへ

生鮮果実は180万トン台の高水準を維持
(平成17年生鮮輸入野菜・果実、財務省貿易統計、情報センター調べ)

平成17年(1~12月)の生鮮野菜の輸入量は107万1070トンと前年比11%の増で、ついに100万トンの大台を突破した。夏秋期に国産野菜が低迷したにもかかわらず、輸入の勢いはとまらず、なお、更新の様相を呈している。

生鮮果実は、前年をやや下回ったものの、高水準を維持している現状から国内産地にとっては需用者や消費者に信頼される供給体制の確立が望まれています。

(生鮮輸入野菜)

(トン、円/kg、%)

	輸入総数(A)		うち東京中央卸売市場取扱い実績(B)		
	数量	単価	数量	B/A	単価
平成元年	206,379	199	25,891	12.5	355
平成2年	235,822	206	28,161	11.9	392
平成3年	271,818	213	30,803	11.3	409
平成4年	245,957	243	30,965	12.6	415
平成5年	346,532	196	40,341	11.6	377
平成6年	581,791	152	64,733	11.1	265
平成7年	660,760	143	74,467	11.3	253
平成8年	620,436	162	69,494	11.2	273
平成9年	570,486	174	69,612	12.2	279
平成10年	736,935	164	75,243	10.2	280
平成11年	871,678	124	82,766	9.5	236
平成12年	925,423	114	90,258	9.8	221
平成13年	968,697	119	85,589	8.8	228
平成14年	768,085	123	71,531	9.3	237
平成15年	883,504	111	75,128	8.5	212
平成16年	967,615	106	75,054	7.8	221
平成17年	1,071,070	95	85,266	8.0	195

コメント

輸入総量は増加の一方だが、東京中央卸売市場経由率は低下傾向となっている
キロ当たり単価は全般に低下傾向で、昨年は100円を割っている

(生鮮輸入果実)

(トン、円/kg、%)

	輸入総数(A)		うち東京中央卸売市場取扱い実績(B)		
	数量	単価	数量	B/A	単価
平成元年	1,531,304	116	182,884	11.9	160
平成2年	1,404,773	122	164,287	11.7	171
平成3年	1,471,536	120	173,479	11.8	172
平成4年	1,531,209	116	178,052	11.6	168
平成5年	1,643,094	90	185,577	11.3	129
平成6年	1,747,601	84	190,882	10.9	117
平成7年	1,675,787	83	178,947	10.7	122
平成8年	1,561,716	96	151,894	9.7	142
平成9年	1,644,525	99	136,672	8.3	146
平成10年	1,544,863	108	115,125	7.5	165
平成11年	1,660,419	102	130,890	7.9	154
平成12年	1,842,848	90	138,947	7.5	129
平成13年	1,746,202	94	124,957	7.2	141
平成14年	1,698,178	102	115,358	6.8	157
平成15年	1,764,113	98	110,525	6.3	150
平成16年	1,856,926	95	109,264	5.9	146
平成17年	1,808,474	96	101,694	5.6	141

コメント

数量は140～180万トンで推移、単価は平成5年以降横ばい傾向となっている。
東京中央卸売市場の経由率は、年々低下傾向で、平成8年以降は10%を割っている。